

平成18年度 函館・大沼・噴火湾ルート活動報告

- O. 地域活動報告の概要
 - 1. ルート運営活動計画に関する地域の報告
 - 2. ルート運営活動計画に関する行政の報告
 - 3. 地域及び行政の運営に関する報告
 - 4. 審査委員会意見に関する報告
 - 5. その他の報告

0-地域活動報告の概要

- ・地域活動に関する報告（函館・大沼・噴火湾ルート）

ルート名称：函館・大沼・噴火湾ルート				平成18年度 地域活動（総括）
	ルート運営活動計画基本方針	No	ルート運営活動計画活動内容	
景観形成	美しい景観とは何かについて考える		景観診断の参加	地域のビューポイントなどの情報を盛り込んだルートマップを今後発信していく。また、植栽活動や清掃活動は来年度以降も継続していく事業であるが資金面でかなりの負担がある。花のパートナー制度も視野に入れた活動を展開していきたい。
			テーマごとのエリアの紹介	
	ビューポイントを発掘する		シニックフォトクラブの設立	
		①	シニックバスツアーの開催	
			シニックルートマップの作成	
		②	フォトコンテストの開催	
	ビューポイント周辺の景観向上に取り組む	③	清掃活動の実施	
		③	植栽活動の実施	
			景観阻害の改善	
観光振興	地域固有の資源を活かした観光メニューの創出	④	バル街V協賛イベント「街なか探訪・学び」ツアー	観光振興に関する活動を数多くしてきたが活動団体同士の連携部分を強化する必要があり連携のための方策が急務である。また、地域住民からニーズのあったツアー、イベントを実施するために”食”をテーマとした活動を展開していきたい。
		⑤	「旧恵山町のブナ林と春の野の花の観察と生きた火山恵山とその周辺の歴史を学ぶ」ツアー	
		⑥	「鹿部町間欠泉とホタテの耳吊り体験」ツアー	
		⑦	縄文文化を再現し体験する歴史探訪ツアー	
	活動団体の連携強化と観光の質の向上	⑧	西部地区の歴史的街並み探索ツアー	
			温泉宿泊施設を拠点に各種体験を交えた「癒し」のツアー	
		⑨	ルート全体で取り組むスマイルキャンペーン	
		⑩	場所を変えた観光分科会の開催	
	歴史を学び活かす	⑪	「函館の歴史を学ぶ」講座	
		⑫	「函館の港を船上から学ぶ」講座	
地域づくり	自然を守りながらうまく活用していく		キャンプ＆ラリーの開催	ガイドの発掘・育成のための活動が今年度成されなかったことから、ガイドの育成を目的とした勉強会を開催したい。また、内部の情報共有の手段である瓦版・メール等についてはさらに進化していく必要がある。また、シニックかるたの商品化を目指していきたい。
			横津岳ガイドツアーの開催	
		⑬	自然環境教育プログラムの提供	
	ガイドの発掘・育成		大沼公園ボランティアガイド研修会	
			ガイド発掘・育成のための連携づくり	
	地域と来訪者の心をつなぐ	⑨	人とひととのふれあい方について勉強する	
	内部的な関心の共有、意識醸成		函館・大沼・噴火湾ルート活動団体一覧作成	
	地域メディアとのタイアップ	②	FMIいるかの情報誌「いるか通信」に特集記事掲載	
		⑭	FMIいるかの特別番組による情報発信	
		⑮	シニックかるたの作成	
	多彩な世代に訴えかける情報ツールの開発		地域資源を説明するカードの作成	

シニックバイウェイ北海道 H18年度函館・大沼・噴火湾ルート活動報告①

名称：シニックバスツア-

日時：平成18年10月22日

主催：函館商工会議所、函館・大沼・噴火湾ルート運営代表者会議

概要：約40名が参加した今年2年目のシニックバスツア-は、テーマを灯台に絞り、ルート内にある4つの灯台（汐首岬灯台・日浦灯台・恵山岬灯台・砂崎灯台）を巡りながらルートを周遊しました。



シニックバイウェイ北海道 H18年度函館・大沼・噴火湾ルート活動報告②

名称：FMいるかとの連携事業①

日時：平成18年7月10日～9月10日

主催：函館・大沼・噴火湾ルート運営代表者会議

概要：FMいるかと連携、ローソン協力により実現した地域メディアとのタイアップ企画で、ルート運営代表者会議が企画制作を行いました。5コースの課題ポイントがあり、写真または絵手紙などでロケーションをハンティングするシニックロケハン体験。また、その小旅行を踏まえて、写真やニックネームを募集し、フォトコンテストも行いました。



シニックバイウェイ北海道 H18年度函館・大沼・噴火湾ルート活動報告③

名称：クリーン・グリーン＆フラワーイベントinはこだて
日時：平成18年6月10日
主催：函館商工会議所青年部、函館・大沼・噴火湾ルート運営代表者会議、
函館花いっぱい道づくりの会
概要：函館の陸路のゲートウェイ、函館IC付近から産業道路までの沿道の清掃活動を行いました。また、同じ日に函館花いっぱい道づくりの会（17団体で構成、うち2団体がシニックバイウェイ参加団体）による植栽活動を函館新道で行いました。函館商工会議所青年部と函館・大沼・噴火湾ルート運営代表者会議と函館花いっぱい道づくりの会が初めて連携した取り組みでした。



シニックバイウェイ北海道 H18年度函館・大沼・噴火湾ルート活動報告④

名称：バル街V協賛イベント「街なか探訪・学びツアー」
日時：平成18年4月16日
主催：NPO法人どうなん「学び」サポートセンター
概要：西部地区飲み歩きイベント「バル街」の協賛イベントとして、小雨の中約30人が参加し、函館菜の花プロジェクト代表の石塚大氏らのガイドを受けながら、西部地区の街歩きを行いました。



シーニックバイウェイ北海道 H18年度函館・大沼・噴火湾ルート活動報告⑤

名称： 旧恵山町のブナ林と春の野の花の観察と生きた火山恵山とその周辺を学ぶツアー
日時： 平成18年5月20日
主催： NPO法人どうなん「学び」サポートセンター
概要： 約30名が参加したこのバスツアーは、北海道立林業試験場道南支場の許可を得て旧恵山町のブナ林の観察を行い、その後恵山とその周辺の環境についてガイドを受けながら恵山の観察を行いました。



シーニックバイウェイ北海道 H18年度函館・大沼・噴火湾ルート活動報告⑥

名称： 「鹿部町間欠泉とホタテの耳吊り体験」ツアー
日時： 平成18年6月25日
主催： NPO法人どうなん「学び」サポートセンター
概要： 約30人が参加し、鹿部漁港にて「鹿部町間欠泉とホタテの耳吊り体験」ツアーが行われました。鹿部漁協組合の方々にホタテに関する講義を受けた後、参加者たちは実際にホタテの耳吊りを体験しました。



シニックバイウェイ北海道 H18年度函館・大沼・噴火湾ルート活動報告⑦

名称： 2006縄文の道フォーラム、縄文市民サミットinはこだて
日時： 平成18年10月7日
主催： 縄文都市連絡協議会、北海道函館市
後援： 函館・大沼・噴火湾ルート運営代表者会議、函館21の会、北の縄文CLUB、NPO法人どうなん「学び」サポートセンターなど
概要： NPO法人どうなん「学び」サポートセンター理事長奥平忠志氏による「学びと体験を取り入れた縄文観光」と題する講演や、縄文人の食事を実際に体験できる縄文食、また、アンギン編みなどのワークショップが行われました。



シニックバイウェイ北海道 H18年度函館・大沼・噴火湾ルート活動報告⑧

名称： 函館の歴史を学ぶエクスカーション
日時： 平成18年7月15日
主催： NPO法人どうなん「学び」サポートセンター
概要： 函館市の西部地区をエクスカーション（散策）するイベントに約30名が参加しました。



シニックバイウェイ北海道 H18年度函館・大沼・噴火湾ルート活動報告⑨

名称：スマイルキャンペーン

日時：平成18年9月1日～10月15日

主催：函館商工会議所青年部、函館商工会議所

概要：函館に来て頂いたお客様に対し、歓迎の気持ちを伝えることを目的として開催しました。今年は新たな試みとして、ハコダスマイル写真コンテストも開催しました。

2006スマイル写真コンテスト結果

金賞



銀賞



銀賞



シニックバイウェイ北海道 H18年度函館・大沼・噴火湾ルート活動報告⑩

名称：観光分科会開催

主催：函館・大沼・噴火湾ルート観光分科会

概要：函館市、森町、七飯町、鹿部町、八雲町とエリア内を巡見し計6回の観光分科会を開催しました

会議名	開催日	場所	概要
第1回観光分科会	平成18年4月1日	函館サテライト(函館市)	地域資源を結びつけたツアーの可能性について
第2回観光分科会	平成18年4月22日	森町ふれあいセンター(森町)	森町、鹿部町におけるロードサイドからの眺望ポイントの発掘
第3回観光分科会	平成18年5月27日	大沼婦人会館(七飯町)	七飯町におけるロードサイドからの眺望ポイントの発掘
第4回観光分科会	平成18年6月24日	鹿部町中央公民館(鹿部町)	鹿部町におけるロードサイドからの眺望ポイントの発掘
第5回観光分科会	平成18年7月16日	ホテルひろめ荘(函館市)	ルート運営活動計画書作成
第6回観光分科会	平成18年8月27日	噴火湾パノラマパーク(八雲町)	八雲町におけるロードサイドからの眺望ポイントの発掘

▲観光分科会開催概要



シーニックバイウェイ北海道 H18年度函館・大沼・噴火湾ルート活動報告⑪

名称：函館の歴史を学ぶ講座

日時：平成18年5月25日

主催：NPO法人どうなん「学び」サポートセンター

概要：北海道教育大学函館校で行われた「函館の歴史を学ぶ」講座には約20名が参加しました。当大学助教授の根本先生より「ゲートシティ・函館」というテーマでお話しして頂きました。



シーニックバイウェイ北海道 H18年度函館・大沼・噴火湾ルート活動報告⑫

名称：函館の港を船上から学ぶ講座

日時：平成18年8月24日

主催：NPO法人どうなん「学び」サポートセンター

概要：函館の港を船上から学ぶ講座は午前と午後の部に分けて行われ合わせて約40名が参加しました。函館港の歴史について学んだ後、函館開発建設部築港課より船をお借りし函館港を巡回しました。



シーニックバイウェイ北海道 H18年度函館・大沼・噴火湾ルート活動報告⑬

名称：亀田川にいきものをさがそう

日時：平成18年7月29日

主催：NPO法人どうなん「学び」サポートセンター

概要：亀田川に存在するいきものを探すイベントに子供たち約500名が参加しました。捕まえた虫などを事前に用意した図鑑と照らし合わせながら名前の確認も行いました。



シーニックバイウェイ北海道 H18年度函館・大沼・噴火湾ルート活動報告⑭

名称：FMいるかとの連携事業②

日時：平成18年8月10日

主催：函館・大沼・噴火湾ルート運営代表者会議

概要：FMいるかと連携、ローソン協力、また函館・大沼・噴火湾ルートの参加団体でもある函館湯の川温泉旅館協同組合・函館商工会議所・七飯町商工会・函館国際観光コンベンション協会・八雲観光協会とその他の企業に協賛を募り、7時間のシーニック特別番組を実施しました。FMいるかのいるか号がルート内を回り、八雲町・鹿部町・森町・七飯町・函館市恵山地区に中継地点を設置。そこで、各町の参加団体が自分たちの町やシーニックバイウェイに関する抱負などを語りました。



シーニックバイウェイ北海道 H18年度函館・大沼・噴火湾ルート活動報告⑯

名称：かるたづくりワークショップ
日時：平成18年11月19日（日）
主催：函館・大沼・噴火湾ルート情報分科会

概要：“函館・大沼・噴火湾ルート内にある地域資源をかるたにしてみよう”と情報分科会が発案し開催しました。当日は12人（内子供3人）の参加者が集まり、実験的にかるたづくりが行われました。



シーニックバイウェイ北海道 H18年度函館・大沼・噴火湾ルート活動報告（その他）

名称：はこだて菜の花まつり
日時：平成18年6月4日
主催：はこだて菜の花プロジェクト
概要：あいす118の農場をお借りして菜の花の栽培を行ってい、毎年菜の花が満開に咲く時期に合わせて菜の花まつりを開催しています。菜の花入りの「高田屋嘉兵衛鍋」の販売、菜種油を利用したキャンドル手づくり体験、菜の花摘み取り販売、菜の花ドーナツ販売などが行われました。



シーニックバイウェイ北海道 H18年度函館・大沼・噴火湾ルート活動報告（その他）

名称： 大船遺跡周辺清掃

日時： 平成18年6月17日

主催： 北の縄文CLUB

概要： 小雨の中12名が参加し大船遺跡周辺の清掃活動を行いました。大船遺跡展示館開館時期に合わせ、来訪客に気持ち良く周辺を回って頂くために、遺跡周辺の草刈りなどを行いました。



シーニックバイウェイ北海道 H18年度函館・大沼・噴火湾ルート活動報告（その他）

名称： 花いっぱい事業

日時： 平成18年6月17日

主催： 七飯町商工会

概要： 国道5号（赤松街道）沿いの家庭の軒先にプランターを置かせてもらい、住民自ら花の手入れをする活動で、今年2年目。



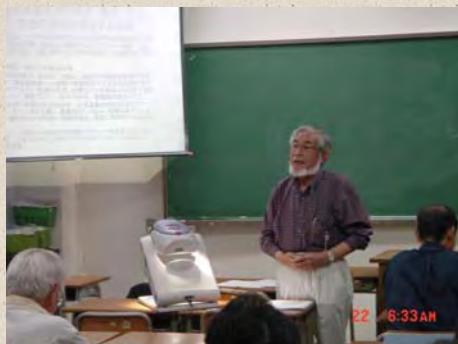
シニックバイウェイ北海道 H18年度函館・大沼・噴火湾ルート活動報告（その他）

名称：函館の港を学ぶ講座

日時：平成18年6月22日

主催：NPO法人どうなん「学び」サポートセンター

概要：北海道教育大学函館校で行われた「函館の港を学ぶ」講座には約20名が参加しました。当会の理事長である奥平忠志氏より自身の論文を交えながら函館の港の歴史についてお話しして頂きました。



シニックバイウェイ北海道 H18年度函館・大沼・噴火湾ルート活動報告（その他）

名称：納涼夜店

日時：平成18年7月15日～16日

主催：七飯町商工会

概要：七飯町の施設を利用して、演奏会・踊り・夜店などのイベントが行われました。



シニックバイウェイ北海道 H18年度函館・大沼・噴火湾ルート活動報告（その他）

名称：コモツチづくり

日時：平成18年7月29日

主催：北の縄文CLUB

概要：アンギンを編むときにおもりの役目を果たすコモツチを作る活動が行われました。9名の参加者の中には札幌、遠くは横浜からの会員の方もいらっしゃいました。この日はあいにくの天気で屋内の作業でしたが、みなさん時間を忘れ一心に作業していました。



シニックバイウェイ北海道 H18年度函館・大沼・噴火湾ルート活動報告（その他）

名称：赤松観察会

日時：平成18年8月6日

主催：函館エコロジークラブ

概要：約40名が参加し弱った赤松や元気な赤松の見分け方についての解説や赤松の高さの実測、害虫等について樹木医に教えていただきました。
また、赤松観察後は付近の清掃活動も行いました。



シーニックバイウェイ北海道 H18年度函館・大沼・噴火湾ルート活動報告（その他）

名称：アンギン編み機作成

日時：平成18年9月16日

主催：北の縄文CLUB

概要：7月に行われたコモツチづくりで作成したコモを使用し、アンギンを編む機械であるアンギン編み機を作成しました。南茅部公民館での作業に約10名が参加しました。



シーニックバイウェイ北海道 H18年度函館・大沼・噴火湾ルート活動報告（その他）

名称：赤松こも巻き

日時：平成18年10月15日

主催：赤松街道を愛する会（函館エコロジークラブ）

概要：約30名が参加し、冬を越すため松の枝葉から少しでも暖かいところへ行こうとする害虫の習性を利用し、冬が訪れる前に樹木に「こも」を巻き付ける作業を行いました。



シーニックバイウェイ北海道 H18年度函館・大沼・噴火湾ルート活動報告（その他）

名称：シーニックdeナイト～七飯町商工会によるイルミネーション

日時：平成18年11月19日～平成19年2月28日

主催：七飯町商工会

概要：“シーニックdeナイト”のイベント第1弾。七飯町商工会の敷地をイルミネーションで飾りました。テーマは今年から始めた商品券事業と七飯町の特産物であるりんごでした。



シーニックバイウェイ北海道 H18年度函館・大沼・噴火湾ルート活動報告（その他）

名称：シーニックdeナイト～菜の花の油製造機火入式搾油体験会

日時：平成18年12月12日

主催：はこだて菜の花プロジェクト

概要：“シーニックdeナイト”的イベント第2弾。自分たちが育ててきた菜の花からこの日初めて搾油しました。この油を固めろうそくの代わりとしてこれ以降のイベントで使用しました。



シーニックバイウェイ北海道 H18年度函館・大沼・噴火湾ルート活動報告（その他）

名称：シーニックdeナイト～フラワーアイスキャンドル

日時：平成18年12月16日

主催：函館花いっぱい道づくりの会

概要：“シーニックdeナイト”のイベント第3弾。はこだて菜の花プロジェクトから葉の花油を提供してもらい自分たちが育ててきた花とともに彩るフラワーアイスキャンドルを開催しました。



シーニックバイウェイ北海道 H18年度函館・大沼・噴火湾ルート活動報告（その他）

名称：シーニックdeナイト～アイスキャンドル・雪玉キャンドル

日時：平成19年2月3日

主催：NPO法人スプリングボードユニティ21

概要：“シーニックdeナイト”のイベント第4弾。あいにくの雨の中でのイベントでしたが、冬の花を見事に咲かせました。



シーニックバイウェイ北海道 H18年度函館・大沼・噴火湾ルート活動報告（その他）

名称：シーニックdeナイト～函館大沼雪と氷の祭典 ストリートキャンドル

日時：平成19年2月3日

主催：大沼観光協会

概要：“シーニックdeナイト”のイベント第5弾でフィナーレを飾るイベントでした。メイン会場の大沼公園広場までの道をキャンドルで彩りました。“シーニックdeナイト”は多数の団体・行政の協力のもと行われました。



1. ルート運営活動計画に関する地域の報告

- ・地域活動に関する報告（函館・大沼・噴火湾ルート）

ルート名称:函館・大沼・噴火湾ルート	報告者:函館・大沼・噴火湾ルート 会長 金道太朗	報告年月:2007/3
--------------------	--------------------------	-------------

基本方針	ルート運営活動計画活動内容	平成18年度の活動内容	活動団体	活動実施日	成果及び課題	総括
景観形成 ピューポイント周辺の景観向上に取り組む	美しい景観とは何かについて考える テーマごとのエリアの紹介	漁火通りと海岸擁壁について	函館・大沼・噴火湾ルート運営代表者会議	平成19年2月から継続中	漁火通り周辺の道路空間について景観分科会から話題提起され、ルート運営代表者会議において来年度以降地域住民等を交えプロセスを大事にしながら議論していくことで決定した。現在今後のスケジュール等について検討している。	地域のピューポイントなどの情報を盛り込んだルートマップを今後発信していく。また、植栽活動や清掃活動は来年度以降も継続していく事業であるが資金面でかなりの負担がある。花のパートナー制度も視野に入れた活動を展開していくたい。
	ピューポイントを発掘する シニックルートマップの作成	ルートマップ夏・冬バージョンの検討	函館・大沼・噴火湾ルート運営代表者会議	平成18年8月、12月に検討	ルート内のピューポイントや情報拠点について検討中	
	清掃活動の実施	クリーン・グリーン＆フラワーイベント	函館・大沼・噴火湾ルート運営代表者会議	平成18年6月	函館の陸路のゲートウェイ、函館IC付近から産業道路までの沿道、約2kmの清掃活動を行いました。また、同じ日に函館花いっぱい道づくりの会(17団体で構成、うち2団体がシニックバイウェイ参加団体)による植栽活動を函館新道で行った。函館商工会議所青年部と函館・大沼・噴火湾ルート運営代表者会議と函館花いっぱい道づくりの会が初めて連携した取り組みであった。	
		大船遺跡周辺清掃	北の縄文CLUB	平成18年6月	小雨の中12名が参加し大船遺跡周辺の清掃活動を行いました。大船遺跡展示館開館時期に合わせて、来訪客に気持ち良く周辺を回って頂くために、遺跡周辺の草刈りなどを行いました。	
	植栽活動の実施	はこだて花かいどう	函館花いっぱい道づくりの会	平成18年4月～11月	函館の陸路のゲートウェイ、函館IC付近から産業道路までの沿道の清掃活動を行いました。また、同じ日に函館花いっぱい道づくりの会(17団体で構成、うち2団体がシニックバイウェイ参加団体)による植栽活動を函館新道で行った。函館商工会議所青年部と函館・大沼・噴火湾ルート運営代表者会議と函館花いっぱい道づくりの会が初めて連携した取り組みであった。	
		花いっぱい事業	七飯町商工会	平成18年6月	国道5号(赤松街道)沿いの家庭の軒先にプランターを置かせてもらい、住民自ら花の手入れをする活動で、今年2年目。	
		さわらフラワーロード	森町花いっぱい運動推進協議会	平成18年6月～11月	旧砂原町において地域住民による植栽活動を実施した。	
		道道函館空港線での植栽活動	NPO法人スプリングボードユニティ21	平成18年4月～11月	観光都市函館の空の玄関口函館空港の道路沿線に花を植栽し、函館の街の魅力向上を目指し美化活動を行った。	
地域固有の資源を活かした観光メニューの創出	「旧恵山町のブナ林と春の野の花の観察と生きた火山恵山とその周辺の歴史学ぶ」ツアー	NPO法人どうなん「学び」サポートセンター	平成18年5月	約30名が参加したこのバスツアーは、北海道立林業試験場道南支場の許可を得て旧恵山町のブナ林の観察を行い、その後恵山とその周辺の環境についてガイドを受けながら恵山の観察を行った。		
	函館菜の花まつり	はこだて菜の花プロジェクト	平成18年6月	あいす118の農場をお借りして菜の花の栽培を行っており、毎年菜の花が満開に咲く時期に合わせて菜の花まつりを開催している。菜の花入りの「高田屋嘉兵衛鍋」の販売、菜種油を利用したキャンドル手づくり体験、菜の花摘み取り販売、菜の花ドーナツ販売などが行われた。		
	納涼夜店	七飯町商工会	平成18年7月	七飯町の施設を利用して、演奏会・踊り・夜店などのイベントが行われた。		
	「厚沢部町レクの森散策と昆虫の観察」ツアー	NPO法人どうなん「学び」サポートセンター	平成18年8月	厚沢部町にあるレクの森を散策し、クワガタなどの昆虫を観察しました。		

ルート名称:函館・大沼・噴火湾ルート	報告者:函館・大沼・噴火湾ルート 会長 金道太朗	報告年月:2007/3
--------------------	--------------------------	-------------

基本方針	ルート運営活動計画活動内容	平成18年度の活動内容	活動団体	活動実施日	成果及び課題	総括
観光振興 活動団体の連携強化と観光の質の向上	しかべ海と温泉のまつり協賛花火大会		鹿部温泉観光協会	平成18年8月	例年8月第3土日。物産即売会やふれあい水族館、カッターレースなど、町外から来てもたっぷり楽しめます。夜には道南一を自負する噴火湾を染めての花火大会が行われた。	観光振興に関する活動を数多くしてき たが活動団体同士の連携部分を強化 する必要があり連携のための方策が急務である。また、地域住民からニーズの あったツアー、イベントを実施するために”食”をテーマとした活動を展開してきた い。
	菜の花種まき会		はこだて菜の花プロジェクト	平成18年9月	名の花の収穫を終え、来年度の満開の菜の花を目指して種まき会を実施した。	
	バル街Ⅴ協賛イベント「街なか探訪・学び」ツアー		NPO法人どうなん「学び」サポートセンター、はこだて菜の花プロジェクト	平成18年4月	西部地区飲み歩きイベント「バル街」の協賛イベントとして、小雨の中約30人が参加し、函館菜の花プロジェクト代表の石塚大氏らのガイドを受けながら、西部地区の街歩きを行った。	
	「鹿部町間欠泉とホタテの耳吊り体験」ツアー		NPO法人どうなん「学び」サポートセンター、鹿部温泉観光協会	平成18年6月	約30人が参加し、鹿部漁港にて「鹿部町間欠泉とホタテの耳吊り体験」ツアーが行われました。鹿部漁協組合の方々にホタテに関する講義を受けた後、参加者たちは実際にホタテの耳吊りを体験しました。	
	スマイルキャンペーン		函館商工会議所青年部、函館すぶれっと ほか	平成18年9月	函館駅前などで、おもてなしの心をもって人と接したり、道路上の清掃活動なども行いました。	
	NPOまつり		NPO法人どうなん「学び」サポートセンター、北の縄文CLUB、NPO法人スプリングボードユニティ21 ほか	平成18年10月	市内の市民活動団体が趣向を凝らし、普段は見かけない珍しい食べ物や物品を販売するほか、活動内容をアピールする”市民パワーパビリオン”など、イベントが盛りだくさんでした。	
	縄文の道フォーラム、縄文市民サミットinはこだて		NPO法人どうなん「学び」サポートセンター、北の縄文CLUB、函館すぶれっと ほか	平成18年10月	NPO法人どうなん「学び」サポートセンター理事長奥平忠志氏による「学びと体験を取り入れた縄文観光」と題する講演や、縄文人の食事を実際に体験できる縄文食、また、アンギン編みなどのワークショップが行われました。	
	シーニックバスツアー		函館・大沼・噴火湾ルート運営代表者会議	平成18年10月	約40名が参加した今年2年目のシーニックバスツアーは、テーマを灯台に絞り、ルート内にある4つの灯台(汐首岬灯台・日浦灯台・恵山岬灯台・砂崎灯台)を巡りながらルートを周遊した。	
	シーニックdeナイト		函館・大沼・噴火湾ルート運営代表者会議	平成18年11月～2月	指定ルート記念事業の一環として、参加活動団体同士の連携をより高めるため、シーニックdeナイトを開催した。本事業は、11月から2月にかけて活動団体が以前より行ってきた既存の活動を中心に、シーニックバイウェイとしての付加価値をつけて、互いに協力・連携を図りながら、ロングランイベントとして実現した。	
	カルチャーナイト		函館商工会議所	平成18年12月	公共施設や文化施設、民間施設を夜間開放していただき、市民が地域の文化を楽しむ行事です。各施設がもっている専門分野や特色を生かした文化プログラムを、その日のために提供していただいた。	
	「函館の歴史を学ぶ」講座		NPO法人どうなん「学び」サポートセンター	平成18年5月	北海道教育大学函館校で行われた「函館の歴史を学ぶ」講座には約20名が参加した。当大学助教授の根本先生より「ゲートシティ・函館」というテーマでお話しして頂いた。	
	「函館の港を学ぶ」講座		NPO法人どうなん「学び」サポートセンター	平成18年6月	北海道教育大学函館校で行われた「函館の港を学ぶ」講座には約20名が参加しました。当会の理事長である奥平忠志氏より自身の論文を交えながら函館の港の歴史についてお話しして頂きました。	

ルート名称:函館・大沼・噴火湾ルート	報告者:函館・大沼・噴火湾ルート 会長 金道太朗	報告年月:2007/3
--------------------	--------------------------	-------------

基本方針	ルート運営活動計画活動内容	平成18年度の活動内容	活動団体	活動実施日	成果及び課題	総括
歴史を学び活かす	「函館の歴史」を学ぶエクスカーション(学び散策)講座	NPO法人どうなん「学び」サポートセンター	平成18年7月	函館市の西部地区をエクスカーション(散策)するイベントに約30名が参加した。		
	コモツチづくり	北の縄文CLUB	平成18年7月	アンギンを編むときにおもりの役目を果たすコモツチを作る活動を行った。9名の参加者の中には札幌、遠くは横浜からの会員の方もいらっしゃいました。この日はあいにくの天気で屋内の作業でしたが、みなさん時間を忘れ一心に作業していました。		
	「函館の港を船上から学ぶ」講座	NPO法人どうなん「学び」サポートセンター	平成18年8月	函館の港を船上から学ぶ講座は午前と午後の部に分けて行われ合わせて約40名が参加した。函館港の歴史について学んだ後、函館開発建設部築港課より船をお借りし函館港を巡回した。		
	アンギン編み機作成	北の縄文CLUB	平成18年9月	7月に行われたコモツチづくりで作成したコモを使用し、アンギンを編む機械であるアンギン編み機を作成しました。南茅部公民館での作業に約10名が参加した。		
	「函館とその周辺の海洋の環境を学ぶ」講座	NPO法人どうなん「学び」サポートセンター	平成18年9月	連続講座第5回目の「函館とその周辺の海洋の環境」と題して、北海道大学名誉教授の米田先生に講義して頂いた。		
	「函館の将来を語る」フォーラム	NPO法人どうなん「学び」サポートセンター	平成18年11月	函館固有の特質を踏まえながら、今後予測される激動の社会情勢の中を、「函館らしさを創造」しながらどのように乗り越えていったら良いかを、首都や国土の再生という国家レベルから様々な提言をなされている建築家岡田新一氏、函館から全国を視野に企業展開をされている起業家阪口あき子氏、当会の理事長で北海道教育大学名誉教授奥平忠志との懇談を通して、その糸口を探りました。		

ルート名称:函館・大沼・噴火湾ルート	報告者:函館・大沼・噴火湾ルート 会長 金道太朗	報告年月:2007/3
--------------------	--------------------------	-------------

基本方針	ルート運営活動計画活動内容	平成18年度の活動内容	活動団体	活動実施日	成果及び課題	総括
自然を守りながら うまく活用していく 地域づくり	函館山観察会		NGO函館自然観察会	平成18年5月、9月、10月	函館山にいくつかある散策コースをガイドとともに楽しむイベントである。	ガイドの発掘・育成のための活動が今年度成されなかったことから、ガイドの育成を目的とした勉強会を開催したい。また、内部の情報共有の手段である瓦版・メール等についてはさらに進化していく必要がある。また、シニックかるたの商品化も目指していきたい。
	笹流ダム公園観察会		NGO函館自然観察会	平成18年6月	土木遺産でもある笹流ダム公園をガイドとともに散策するイベントである。	
	ホタル鑑賞会		NPO法人函館エコロジークラブ	平成18年6月～7月	熱帯植物園温室内のせせらぎで1年間育ててきたヘイケボタルが羽化に成功、H17年6月25日から7月2日の8日間に、1800名を越す入園者があった。	
	黒松内添別渓谷＆ブナ林観察会		NGO函館自然観察会	平成18年7月	渓谷美は見事、森は爽やかに生きる若いブナと子孫を繋ぐため必死に生きる老木や林床植物、野鳥をお目当てに観察会を行いました。	
	「亀田川にいきものをさがそう」		NPO法人どうなん「学び」サポートセンター	平成18年7月	亀田川に存在するいきものを探すイベントに子供たち約500名が参加した。捕まえた虫などを事前に用意した図鑑と照らし合わせながら名前の確認も行った。	
	赤松観察会		NPO法人函館エコロジークラブ	平成18年8月	約40名が参加し弱った赤松や元気な赤松の見分け方についての解説や赤松の高さの実測、害虫等について樹木医に教えていただいた。また、赤松観察後は付近の清掃活動も行った。	
	赤松こも巻き会、こも外し		NPO法人函館エコロジークラブ	平成18年10月	約30名が参加し、冬を越すため松の枝葉から少しでも暖かいところへ行こうとする害虫の習性を利用し、冬が訪れる前に樹木に「こも」を巻き付ける作業を行った。 3月には巻き付けた「こも」を外す作業が行われ、こもに集まった害虫を除去した。	
	人とひととのふれあい方について勉強する	光の街の手工芸家たちの作品展	函館手工芸の会	平成18年9月	花や布等を利用して手作りの作品を展示。また、函館にこだわったイカをモチーフにした作品も展示・販売した。	
内部的な関心の共有、意識醸成	瓦版の作成		函館・大沼・噴火湾ルート運営代表者会議情報分科会	通年	活動団体が行うイベントやシニックバイウェイニュースなどを瓦版として、1月1回程度のペースで全活動団体に送付した。	
地域メディアとの タイアップ	FMIいるかの情報誌「いるか通信」に特集記事掲載		函館・大沼・噴火湾ルート運営代表者会議	平成18年7月～10月	FMIいるかと連携、ローン協力により実現した地域メディアとのタイアップ企画で、ルート運営代表者会議が企画制作を行いました。5コースの課題ポイントがあり、写真または絵手紙などでロケーションをハンティングするシニッククロケハン体験。また、その小旅行を踏まえて、函館・大沼・噴火湾ルートのニックネームを募集しました。	
	FMIいるかの特別番組による情報発信		函館・大沼・噴火湾ルート運営代表者会議	平成18年8月	FMIいるかと連携、ローン協力、また函館・大沼・噴火湾ルートの参加団体でもある函館湯の川温泉旅館協同組合・函館商工会議所・七飯町商工会・函館国際観光コンベンション協会・八雲観光協会とその他の企業に協賛を募り、7時間のシニック特別番組を実施しました。FMIいるかの中継車である“いるか号”がルート内を回り、八雲町・鹿部町・森町・七飯町・函館市恵山地区に中継地点を設置。そこで、各町の参加団体が自分たちの町やシニックバイウェイに関する抱負などを語りました。	
多彩な世代に訴えかける情報ツールの開発	シニックかるたの作成	かるたづくりワークショップ	函館・大沼・噴火湾ルート運営代表者会議情報分科会	平成18年11月	“函館・大沼・噴火湾ルート内にある地域資源をかるたにしてみよう”と情報分科会が発案し開催しました。当日は12人(内子供3人)の参加者が集まり、実験的にかるたづくりが行われました。	

2. ルート運営活動計画に関する行政の報告

・行政の事業に関する報告(函館・大沼・噴火湾ルート)

ルート名称:函館・大沼・噴火湾ルート	報告者:函館開発建設部	報告年月:2007/3
--------------------	-------------	-------------

	基本方針	平成18年度の活動内容	実施機関	活動実施日	成果及び課題	総括
景観形成	美しい景観とは何かについて考える					
	ピューポイントを発掘する					
	ピューポイント周辺の景観向上に取り組む	・「クリーニンググリーン＆フラワーイベント」として、函館の陸路のゲートウェイ、函館ICから産業道路までの沿道のゴミ拾いのため、除雪ステーションの駐車場及びVSP資器材を支援。	函館花いっぱい道づくりの会 函館商工会議所など 函館開発建設部 函館道路事務所	6月10日	参加者が約650名と大勢の上、活動場所は公共交通が乏しい場所であり、参加者の多くが車で会場に集まるため、駐車場の提供は参加者から好印象を受けている。	
		国道5号において、函館市へのウェルカムロードとして、VSP活動団体へ、活動場所として除雪STの駐車場及び水・トイレの提供を実施した。	函館花いっぱい道づくりの会 函館開発建設部 函館道路事務所	6月10日(土) (活動期間5月～10月)	VSPの活動として定着しており、活動メンバーも沿道町内会に主力メンバーがいるために、清掃活動が頻繁に行われているためゴミが目立たなくなっている。	
観光振興	地域固有の資源を活かした観光メニューの創出	「大沼函館雪と氷の祭典」開催に当たり、主催団体、交通管理者及び各道路管理者間にて、協力体制を確認し、支援した。 道路情報板にてイベント開催のPRした。	大沼観光協会 他 函館開発建設部 函館道路事務所	2月3日(土) 2月4日(日)	『大沼函館雪と氷の祭典』開催中 大沼公園付近 通行注意』として、道路情報板にて開催をPRした。	
	活動団体の連携強化と観光の質の向上	・シニックバイウェイ函館・大沼・噴火湾ルートを繋ぐイベント「キャンドルナイト～シニックでつながるあかりみち」を後援。キャンドルを作成するなどの職員協力に加えて、制作資材(北斗市など)の提供。 当日は、開催時間のみ試行的に周辺照明を消灯するなど、イベント協力を実施。	はこだて花いっぱい道づくりの会 函館開発建設部 函館道路事務所	12月16日 2時間	キャンドルの明かりが際立ち、参加者から照明消灯の道路管理者としての協力について賛同意見が聞けた。ただし、安全管理の面で不安があり、今回は、警察署においてイベント時間内にパトカーでの巡回を実施していただいた。 今後は、冬期VSPとして砂巻きなどと併せて継続的な活動として取り組めるように支援していく。	
		・シニックバイウェイ函館・大沼・噴火湾ルートを繋ぐイベント「キャンドルナイト～シニックでつながるあかりみち」を後援。準備作業を手伝う等の職員協力。 当日は、開催時間のみ試行的に周辺照明を消灯するなど、イベント協力を実施。	大沼観光協会 他 函館土木現業所 函館開発建設部	2月3日 2時間	キャンドルの明かりが際立ち、参加者から照明消灯の道路管理者としての協力について賛同意見が聞けた。	
		・シニックバイウェイ函館・大沼・噴火湾ルートを繋ぐイベント「キャンドルナイト～シニックでつながるあかりみち」を後援。記者発表など、活動のPRを行った。	函館・大沼・噴火湾ルート運営代表者会議 函館開発建設部 函館土木現業所			
	歴史を学び活かす					
	自然を守りながらうまく活用していく	赤松街道の保全し地域教育に活用するため、観察会の開催を支援した。	NPO法人函館エコロジークラブ 函館開発建設部 函館道路事務所	8月6日(日)		

地域づくり	地域と来訪者の心をつなぐ				
	内部的な関心の共有、意識醸成				
	地域メディアとのタイアップ				
	多彩な世代に訴えかける情報ツールの開発				

3. 地域及び行政の運営に関する報告

・函館・大沼・噴火湾ルート

ルート名称:函館・大沼・噴火湾ルート	報告者:函館・大沼・噴火湾ルート 会長 金道太朗	報告年月:2007/3
--------------------	--------------------------	-------------

	基本方針		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
地域の運営に関わる事項	ルート運営 代表者会議			● 13日	● 28日		● 11日	● 4日			● 4日		● 24日	● 29日	
	幹事会					● 20日	● 29日	● 13日							
	分科会	景観	● 8日			● 6日	● 4日								
		観光	● 1日、22日	● 27日	● 24日	● 16日	● 26日								
		自然・アウトドア	● 28日		● 5日、26日	● 21日	● 30日								
		情報	● 11日							● 19日					

ルート名称:函館・大沼・噴火湾ルート	報告者:函館開発建設部	報告年月:2007/3
--------------------	-------------	-------------

	基本方針		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
行政の運営に関わる事項	行政連絡会議の実施				● 8日 (ルート運営行政連絡準備会として)			● 7日 (ルート運営行政連絡準備会として)			● 4日		行政ヒアリング		4月から支援センターから全道メール配信 12月から、かわら版として当該地域の活動状況をメールにて報告

4. 審査委員会意見に関する報告

・函館・大沼・噴火湾ルート

ルート名称: 函館・大沼・噴火湾ルート	報告者: 函館・大沼・噴火湾ルート会長 金道太朗 / 函館開発建設部	報告年月: 2007/3
---------------------	------------------------------------	--------------

	助言	函館・大沼・噴火湾ルート運営代表者会議の報告	函館・大沼・噴火湾ルート行政連絡会議の報告	備考
シニック バイウェイ ルート全体 に対する意 見	地域特性の活用: 北海道特有の気候風土を生かし、常に新しいものの追加、物語りの充実、国際競争力の強化を進め、通年性、持続性を確保	11月から2月にかけて指定記念事業”シニックdeナイト”を実施した。このイベントは北海道の寒い冬の気候を生かし、冬の道をキャンドルで灯すイベントとして実施した。今年度は5つの活動団体が主に連携したイベントであり、イベント終了後のヒアリングでは「一緒に活動する団体数をもっと増やしたい」「一目でシニックバイウェイのイベントとわかる工夫を施したい」などの声が上がった。しかし来年度以降は持続的に活動していくための資金確保が必要となってくる。		
	景観への取り組み: 景観意識の向上、景観や地域資源を生かしたコミュニティビジネスの創出	「漁火通りと海岸擁壁」について、ルート運営代表者会議でプロセスを大事にしながら検討していくことが決定した。本格的な検討は来年度以降になるが、地域住民等を含めた幅広い層を交えて検討していきたい。		
	自然に与えられた景観の活用に加え、まちなかの建物・看板等の規制や指導などの検討			
	既存観光地からの脱却を目指し、歴史・文化・レクリエーションなど幅広く地域の個性を生かし、新たなツーリズムの展開に向けた取り組みの実施	鹿部町にある間欠泉公園を単に巡るバスツアーではなく、鹿部町で有名なほたてを題材にして実際に漁師が行う耳吊りを体験する「鹿部町間欠泉とホタテの耳吊り体験ツアー」を実施した。この活動は鹿部温泉観光協会とNPO法人どうなん「学び」サポートセンターとの連携により実施された。来年度以降は地域の文化(食)を最大限に生かし、異なる活動団体同士の連携をプラスしたツアーを実施したい。		
	持続性の確保: 参加する各主体(国、道、市町村、活動団体、住民)による持続的な責任ある行動とその活動や成果に対する外部評価やアドバイザーの採用	ルート内に植栽活動を行う活動団体が幾つかあり、それぞれ継続した活動を行ってきている。3月にかとうけいこさんをお迎えして活動内容についてお話しし、現在抱えている課題についてアドバイス等を頂いた。		
	ホスピタリティ向上: 研修プログラムの実施、地域での多様な人材育成	大沼観光協会では大沼公園ボランティアガイド研修会、函館商工会議所では函館歴史文化観光検定が行われた。しかし、各活動団体で個々に行われているため今後は情報共有を密にしながらスキルアップを図っていきたい。		
	全国・世界への情報発信、旅行会社等民間企業との連携	地元旅行会社と連携したツアーの実施を行っていきたい。		
	開かれた運営体制: 繼続的な参加者の募集、地域住民やコミュニティとの連携・協働	今後も地元FMIいるかとの連携を深めながらシニックバイウェイ北海道の啓蒙に努めていきたい。また現在の会議は主に参加活動団体の参加となっているため、今後はサポートーズクラブを構築して個人・企業の参加も促していきたい。		
函館・大沼・噴火湾ルート	人々が生活する場の景観の改善や、各資源の融合、組み立てによるブランド化に向けた取り組みに期待			
	ホスピタリティ向上等、来訪者をお迎える「おもてなし」について、具体的に活動計画に反映すること	函館歴史文化観光検定等を生かしガイドのスキルアップにより来訪客との接点を増やしたり、ホテルの従業員のスキルアップにより、来訪客に「おもてなし」できるような活動を行っていきたい。		
	活動団体同士や行政、企業やNPO等、多種多様な主体の参加・協働を一層進めるとともに、広域的な連携を行うにあたり、「人材育成」についての体制の強化	サポートーズクラブを構築して個人・企業の参加も促していきたい。		

5. その他

・函館・大沼・噴火湾ルート

ルート名称:函館・大沼・噴火湾ルート	報告者:函館・大沼・噴火湾ルート会長 金道太朗
--------------------	-------------------------

ルート運営活動計画の変更

変更内容	変更前	変更後	備考
シーニックバイウェイ北海道参加団体数	28	29	新規加入団体…函館市埋蔵文化財事業団